

労災事故から従業員守れ

県内すでに4人死亡 労働局が緊急要請

山梨県内で死亡労災事故が相次いでいることを受け、県内事業所などがさまざまな手段で従業員に対策を周知している。山梨労働局によると、今年1〜4月末の労災の死者数は4人で、前年同期比3人増。労働局は5月上旬に事故防止の取り組み強化を求める緊急要請を出し、注意を呼びかける。企業や団体は、業務中に労災事故につながる危険なポイントをまとめた動画を作るなどして啓発活動に注力。担当者は「従業員を守るために最善を尽くしたい」と話す。

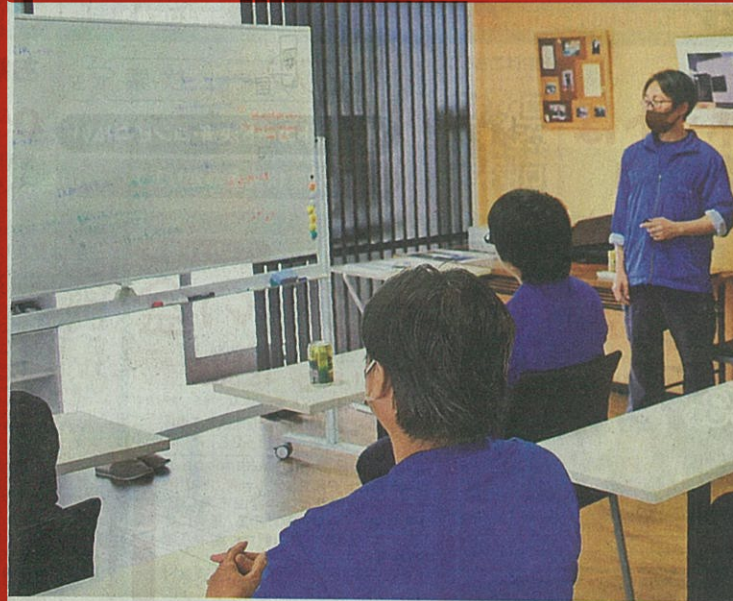
〈社会報道部〉

企業側 動画や研修で周知

「繰り返し安全確認をしよう」。運送業の山梨総合運輸(中央市白井阿原)の会議室やトイレに設置したテレビとタブレットでは、県内の労災に作成。動画では、業務中

事故の事例や車両を運転する時の注意点などをまとめた動画を繰り返し流している。動画は約30秒で、5月中旬

追突や巻き込みなど交通事故の危険性があるとして、適正な車間距離や縦列駐車のポイントなどを紹介している。同社は職員向けに事故の危険性について学ぶ研修会や運転の実技訓練なども実施している。担当者は「どれだけ対策したとしても、リスクがゼロにはならない。従業員を守るために最善を尽くしたい」と語る。



事故の危険性について学ぶ山梨総合運輸の職員ら 中央市内

労働局などによると、今年1〜4月末に、富士吉田市の富士急ハイランドでジェットコースターの点検作業をしていた従業員が車両とレールの間に挟まれた事故など、4件の死亡労災事故が発生。労働局は死亡事故が相次いでいることから、建設業労働災害防止協会支部など10団体に対し、労働災害防止対策の徹底を求める緊急要請をした。緊

急要請を出したのは2023年6月以来。ワイヤハーネス製造・加工のササキ(韮崎市穂坂町宮久保は、社内の廊下や休憩室に設置したデジタルモニターに労働災害防止に向けたポスターを映したり、産業医や専門家の意見を取り入れたりすることを検討している。担当者は「従業員にどれだけ分かりやすく周知できるかが課題」。

バギー転落死 書類送検

和歌山施設社長 業過致死疑い

昨年10月、和歌山県御坊市のレジャー施設「アドベンチャーリゾートマウントキュー」で50代女性がバギーの乗車体験中に崖から転落して死亡した事故で、御坊署が業務上過失致死の疑いで運営会社上層の男性社長を書類送検したことが21日、捜査関係者への取材で分かった。

一方、過去に事故は起きていなかった。運転操作の誤りや速度の出し過ぎの可能性もあることから、検察が当時の運転状況などを検討し、施設側の刑事責任を問えるかどうか慎重に見極める見通し。

捜査関係者によると、現場に転落防止用の柵はなかった。

事故では、女性の後方を走行していた友人がコースを逸脱するのを目撃していた。バギーは約20下に転落したとみられる。コースは森の中に

けを続けていく」と話した。深沢木工所(甲府市下河原町)は毎朝、全作業員が脚立からの転落や電動工具を扱う時の作業着や手の巻き込みといった危険作業を事前に把握するため、「危険予知活動表」を記入している。担当者は「死亡事故を自分のこととしてとらえ、安全性の向上につなげていく」と語る。

県カーリサイクル協同組合は5月中旬に開いた定例会で、県内で死亡労災事故が相次いでいることを議題に挙

最後の週末 観覧に行列

和歌山県白浜町のレジャー施設「アドベンチャー」で、パンダを見られる